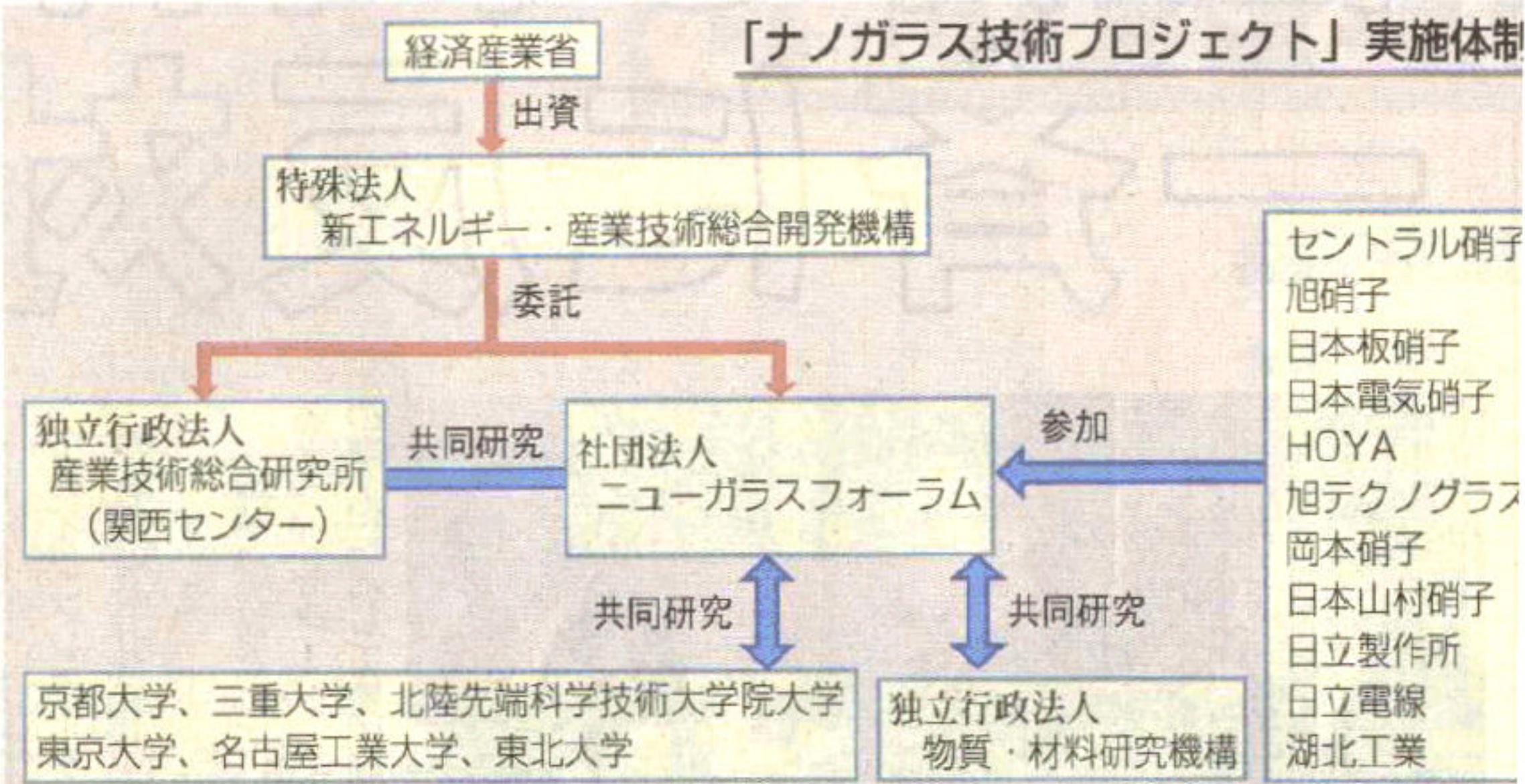


マイクロ・プリフォーム
映像・情報処理をサポートする
非球面レンズ用プレス硝材
日本電気硝子

「死の谷」に架け橋
政府は平成十五年予算案と十四年度補正予算案で、新規施策として「経済活性化に資する研究開発プロジェクト」を創設、総額一千三百二十七億円を投じて、七十件以上のプロジェクトをスタート

「ナノガラス技術プロジェクト」実施体制



する。
経済産業省はこの一環として、産業競争力の強化を狙いに、「フォーカス21」と名付けた研究開発プロジェクトを一気に立ち上げる。
とりわけ、この「フォーカ

事業化へ研究後押し

新規需要・雇用創出めざす

2010年に照準

「ス21」は、実用化を視野に入れたプロジェクトに絞り込んだのが特徴。事業化一歩手前の研究開発は、将来市場の見極めが難しいことから資金調達が容易でなく、民間企業にとって投資リスクが大きいことから、「死の谷」と呼ばれる。「フォーカス21」は、「この「死の谷」に橋を架けるのが狙い」(藤田昌宏・産

同省は、これらのプロジェクトについて、二〇一〇年(平成二十二年)段階での需要創出効果を試算。ちなみに、「ナノガラス技術プロジェクト」の成果をもとに実用化をめざす「ディスプレイ用高強度ナノガラスプロジェクト」は約七百八十億円の市場

業技術環境局産業技術政策課(長)だ。
これに伴い、同省は、ナノテクノロジー・材料分野で十件の「フォーカス21」プロジェクトを創設。いずれも十七年度までの三カ年計画だ。

と約三千三百人の雇用、「ディスプレイ用高機能化ナノガラスプロジェクト」は約四百三十億円の市場と約千八百人の雇用を産み出すと弾いている。
「フォーカス21」に限らず、各省の「経済活性化プロ

プロジェクト」の多くが新規施策であり、新年度入り後の公募によって研究開発実施主体を決めるケースがほとんどだ。
このため、この連載では、「経済活性化プロジェクト」をより広義にとらえ、将来の産業に役立つ技術の研究開発に取り組む既存プロジェクトを中心に上げていく。